

○社会的背景及び課題

- ・人口減少・少子超高齢化
- ・公共施設の老朽化
- ・施設に対するニーズの変化
- ・施設の維持管理・更新等費用の増大 等

○児童・生徒数の急速な減少

- ・平成30年5月時点における本市の小・中学校の児童・生徒数は、ピーク時の約半分。
- ・令和22年には、平成30年比で約3割の減少が見込まれている。

○学校跡施設の増加

- ・現在までに13校が学校統廃合により跡施設となっている。
- ・さらに、令和3年度までに4校が跡施設となる予定。（千城台西・南小、大宮台小、高洲第二中）

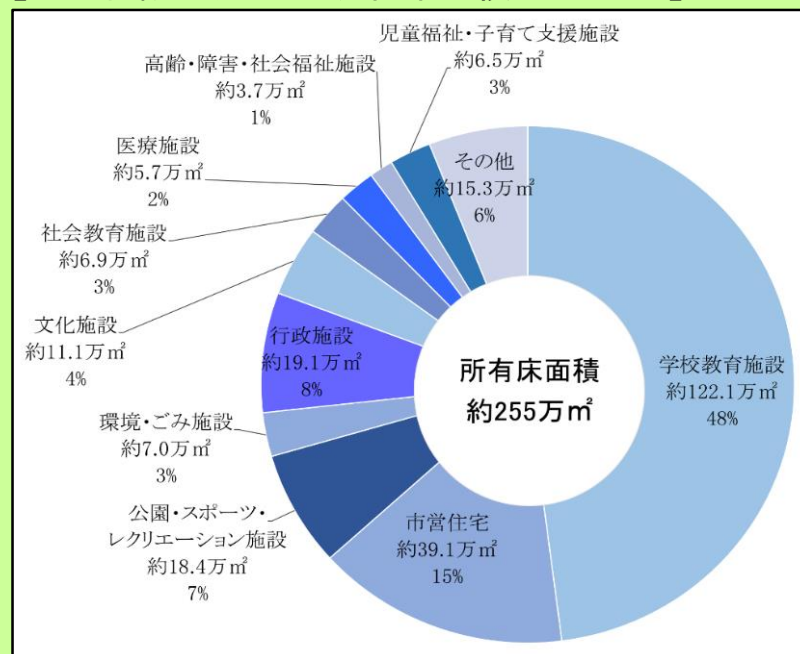


限られた資産を有効に利活用する必要がある

【児童生徒数等の推移】

	ピーク時人数	平成30年5月 時点人数	令和22年学齢期 (6～14歳) 人口予測
小学校 児童数	約92,200人 (昭和56年)	約48,100人	約50,000人
中学校 生徒数	約45,260人 (昭和61年)	約23,300人	

【主な施設の用途別所有床面積(H31.4.1)】



1 老朽公共施設の更新による利活用を検討している事例（千城台西・南小学校）

《 市側から利活用素案を提示し、地元と協議する初めての事例 》

□過去の事例のスケジュール

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
地元	適正配置決定	地域利用要望検討 地域利用要望作成		利用方針案調整	利用方針決定
市			対応検討		

初めに地元が要望書を作成し、その要望を踏まえて市内部で検討。



地元協議がまとまらず時間を要していた。



□千城台地区のスケジュール（イメージ）

	令和元年度		令和2年度		令和3年度
			5月・6月	7～12月	
地元・市	適正配置決定	顔合わせ 勉強会等 素案の作成	素案を地元へ回覧 意見募集	地域利用回答 検討・作成	利用方針決定

必要な情報を地元へ提供した上で、市側から活用素案を提案し、地元が回答書を作成。



協議等の時間短縮

2 活用素案のポイント

- 子どもから大人まで幅広い年代の方が利用できる施設であること
- 学校跡地を上手に活用し、地域の方々が利用する老朽化した施設の更新を図ること
- 余剰となる跡地は売却し、施設更新費用の財源として確保すること

千城台西小学校

千城台公民館・若葉図書館

- 避難所の配置バランスがよい
- 現在地周辺における駐車場不足を解消できる
- 同一敷地内で一体的に整備することにより、駐車場などが共有でき、効率利用が図れる

千城台西保育所

- 現在地に近い場所へ移転することで、既存利用者への負担を軽減

千城台東第一保育所

- 現在地に近い場所へ移転することで、既存利用者への負担を軽減

千城台南小学校

和陽園

- 現在地に近い場所へ移転することで、既存利用者への負担を軽減
- 拠点福祉避難所として、避難所である公民館と隣接した方がよい

